

奥村選手(岡山)

始めた藤原俊太郎選手(21)＝玉野市西田井地。歩んだ道は対照的だが、「観客を熱くさせたい」という思いは同じ。新進気鋭のレーサーが新風を吹き込む。(近藤哲也)

玉野競輪(玉野市築港)で18日、地元勢2人がプロ初レースを迎える。高校・大学で自転車競技の頂点を極めた奥村諭志選手(23)＝岡山市中区国富＝と、高校卒業後に競技を

18日、玉野・山陽新聞社杯で初レース

# 競輪に新風吹き込み

■高校・大学で頂点 走りパワフル

奥村選手は岡山工業高校時代にケイリンでインクターハインなど4冠、鹿屋体大でも全日本インカレを制覇した。177センチ、87キロの体格を生かしたパワフルな走りが魅力。体育教師を目指していたが「さらに高いレベルで戦いたくなった」とプロ入りを決めるまで野球一筋。競輪との出会いは偶然だった。高校3年の時、



玉野競輪の山陽新聞社杯でプロ初レースを迎える奥村選手(右)と藤原選手

3月に卒業した日本競輪学校市内のイベントで自転車をこいで速度を競う体験会に参加。好記録をマークした。運営していた選手らに「将来、決まったな」とおたずねられ、「その気になった」。

高校卒業後、アルバイトをしながら練習。2015年10月、日本競輪学校に合格した。18歳だが、終盤の爆発力、野球で培った忍耐に自信を持つ。「当日は知り合いも多く来るので気合が入る。積極的に先行したい」と話す。

2人が出場するのは20日までの3日間行われる山陽新聞社杯。F2と呼ばれる若手、ベテラン入り交じったレースで、全国から80人の選手が集結する。3日間とも第1レースは午後3時43分にスタート。最終日(20日)は午後2時から先着2000人に山陽新聞社オリジナルタオルをプレゼントする。岡山市商店会連合会公認の「岡山歌姫Chiee」さんのミニライブもある。

藤原選手(玉野)

■高校卒業後転向 忍耐力に自信